



# 卓 話

合いはそれほど強かったわけではありません。どちらかというに関心を持ってもらうきっかけ作りをしたいという思いが強かったのです。だから、特に被災地からの声を発信したいと思っていたのです。支援というと、現地でのボランティアや物資を集めたり方法はさまざまですが、体力や時間的な余裕、経験やスキルがないとできないことの方が多いです。また、経済的な負担も出てきます。ただ、メッセージを書いて写真を撮るだけであれば、住んでいる地域や年齢、経験に関係なくプロジェクトに参加することが可能です。要は、誰にでもできる支援方法を始めたかったのです。

## 「若い人間の想い」

第2580地区ローターアクト

地区ローターアクト幹事 増田 悠太郎氏

第2580地区ローターアクトで今年度地区の幹事を務めております、増田 悠太郎と申します。

今年度、東京四谷RCの小林会長は「サムシングをゲットしよう！」と

いうテーマを掲げ、その中で東日本大震災被災者の早期救済と経済の復興を支援する1年にしようとしてご尽力されているかと思えます。また、「相馬地区の子どもたちへの支援」というプロジェクトにも多くの予算を割いて、非常に震災復興支援に力を入れているクラブの一つであると思えます。



ローターアクトも今年度は特に3月11日の震災に対する支援に力を入れてやっているのです、本日はローターアクトが行っている被災地への支援や今後の展望などについてお話しさせていただきます。それから個人的な思いもあるかもしれませんが、若いローターアクトからのロータリアンの皆さまに対してどのように考えているのか、若い人々の想いのようなものもお話しできればと思います。

3月には、Cheer TOHOKUプロジェクトというものが始まりました。世界中から集められた東北にエールを送るメッセージ、それと同時に被災地の人々の声をインターネットで配信するというプロジェクトです。

これは被災地の人だけじゃなく、世界中の人がインターネットはもちろん、携帯などから閲覧することができます。

ローターアクトの良さ（ロータリーの良さ）は、世界中にクラブがあり、繋がりがあることです。このワールドワイドなネットワークを使えば、簡単に世界中からメッセージ集められます。日本だけでなく、世界中のローターアクトに呼びかけて写真を撮ってきてもらいました。3月14日に立ち上げてから、アメリカ、上海、イタリア、トルコ、エジプト、スペイン、ギリシャなど様々な国から続々と集まってきました。震災に対するアクションを起こしたローターアクトは、おそらく僕らが抜群に早かったと思えます。その甲斐あってか、3月25日にはRIのホームページでも大きく僕たちの活動が紹介されました。

実は被災地にエールのメッセージを送りたいという意味

メッセージを書くことをきっかけに、今後の復興について考え直すような、次なるモチベーションに繋がりたいという思いが非常に強く、実際に、Cheer TOHOKUプロジェクトに参加した海外のローターアクターが、プロジェクトに参加したついでに赤十字に寄付したり、クラブで義援金を集めるアクションを起こしたクラブもたくさんあります。写真を撮って次にどういうアクションを起こそうか、考える良いきっかけ作りができたかと思えます。

他にも、実際に現地に行ってボランティアなども行っています。3月、4月には被災地のニーズの掘り起こしを行うために現地に入っています。宮城県の南三陸町志津川地区の仮設診療所、岩沼市の玉浦中学校などに物資のニーズがあるということが分かりました。掘り起こしたニーズから、5~6月に南三陸の仮設診療所には待合用ソファを寄付し、玉浦中学校には津波で流された部活のユニフォームや、競技用のボールなど寄付することができました。

実際に現地に行って感じたことは、場所によって支援の行き届いている地域もあれば、そうでない地域もあり、かなりムラがあると感じました。その一方で、ボランティアにどのようなことをしてもらったら良いか、受け入れ側もよく理解できていない場合が多く、刻一刻と変わるニーズの変化に対応できない状況が印象的に残りました。今後の支援においても被災地のニーズに対応していくということが非常に重要なテーマとなってくると思います。

被災地のニーズに合った支援をするということは常々感じていることでしたが、現在、現地のロータリーやローターアクターなどと協働で復興支援をしようという企画をしているところです。

実際に宮城で被災した方と直接お話しをする機会がありましたが、その方のお話では、現地の人々の中には支援してもらおうことになれてしまっている人も多く、単発的な支援というよりも、中長期的に現地の人々が自立できる援助をしていく必要があるのではと痛感しました。

そのためにも、パソコンスキル講習などで現地の人々（特に若者や女性）が自分たちで仕事ができるような仕組み作りや、飲食店や宿泊施設の情報、あるいは特産品の通販の情報など、気仙沼にお金が落ちるような情報を発信していくシステムを構築していこうかと企画中です。つまりは、先々現地に雇用を生み出す活動をしたと思っています。そのためのヒントを探しに、4月28日、29日に現地にニーズのヒアリング調査をしに行く予定です。現地のローターアクターのご紹介で、仮設住宅や地元商店街をメインに回ってくる予定です。

被災地のニーズに応えることも重要だが、今後はまた別の視点として、将来の災害支援に対する若手の育成を目指したいと考えています。将来、再び日本で大きな震災が起きた際、必ず若い人々の力が必要になる。特に18～30歳までのローターアクトの世代。そのためにも、実際に現地の様子を自分たちの目で確かめに行き、各々が経験や知識を積み、各地域で情報発信を担ってもらうことが重要だと思います。

第2580地区ローターアクトではボランティアツアーを定期的に開催しています。このプログラムでは、実際に被災地を訪問し、現地の視察やボランティア活動、被災地の方との交流をしています。このようなツアーを行う目的は、時間と経済的事情で、これまで被災地に行く機会がなかった方々が少しでも被災地に行きやすい環境作りをサポートしたいという思いがあります。

特に若い人の中には、「被災地に行ってボランティアしたい。何か力になりたい」と思っている人は多いのですが、「実際何をしたら良いか、どう動いたら良いかわからない。現地に頻繁に行くお金もない」という人がほとんどです。そこで若い学生や社会人で、被災地に行きたても行く機会がなかった人を対象に、現地に3,000円で行くことができるスタディツアーのようなものを企画しました。

例えばこれまでやってきた活動の中に「思い出の写真清掃」というボランティアがありました。写真以外にも家具や仏像、本やおもちゃなど気仙沼の思い出が集まっていた宮城県気仙沼ボランティアセンターでの活動です。ローターアクターがおこなったボランティアでは、被災地で拾われた写真を特殊な液で洗浄し、乾かし、パソコンにとりこみ、写真をアルバムにいれ、整理保存するという内容でした。写真があるということは、写真の持ち主の家が流れたということです。家族で映る和やかな写真、子どもと写真、「ここに写っている人は無事なのだろうか？」と心が痛む思いであり、非常に考え深い活動でした。

また、宮城県七ヶ浜にて瓦礫撤去をなども行いました。瓦礫撤去というと大きな木々、家々の瓦礫破片などを運ぶイメージですが、当時おこなった場所は何もない場所でした。一見瓦礫は片付き、だいぶ復興も進んだと感じましたが、実は掘ってみると大変多くのが埋まっています。ビン、ガラス、家具、それを掘るには恐竜の発掘作業のような機材が必要で、掘ればきりなく出てきます。このよう

な状態が、津波が起きた500kmに及ぶ範囲に広がっていると思うと、復興に10年かかると言われても納得できました。若い世代は継続的に現地にいき、体験しなければならないと強く感じます。

また、ご存知の方もいるかと思いますが、東京四谷RCの子クラブの東京ワセダRCが、創立20周年を記念して2014年にローターアクト提唱を計画しているということです。東京四谷RCも今後ローターアクトと関わる機会も増えてくるかと思っています。ローターアクトから皆様をお願いしたいことは1つだけです。是非ローターアクトの活動を見て欲しいということです。

今年度ロータリーのクラブの例会やコンファレンスで、何回かローターアクトの活動についてお話しさせて頂く機会がありましたが、やはりローターアクトの活動を知って頂くためには、ロータリアンの方がアクトの活動に来て見て頂くしかないと思います。

新世代奉仕が5代奉仕の一つになりましたが、ローターアクトを提唱していないクラブのみなさまにもローターアクトを知っていただくことは非常に重要だと思います。新世代奉仕には、ローターアクトの他に高校生のインターアクト、青少年交換のROTEX、RYLAプログラムなどがありますが、それらを支援すること自体が社会奉仕になり、国際奉仕になり、職業奉仕になると思います。新世代奉仕は、どのロータリアンにもあてはまる奉仕委員会だと思います。

ローターアクトは18～30歳までの若者で構成されています。この年代というのは、これから世に出て行く基礎知識を吸収するような年代です。どのようなことに対しても貪欲に知識を深めて行きたい、そういう年代だと思います。こういう知識欲に溢れた年代に、「ロータリーとは何か」「いかにしてあるべきか」こういうことを知ってもらうことはロータリーの明るい未来に繋がるものです。それこそが新世代奉仕というものを意味のある、価値のあるものにしたいと思います。

今ロータリークラブは会員減少が問題になっていますが、ローターアクトを育てることがロータリーの会員拡大になると強く思います。ローターアクトは30歳で卒業です。卒業後すぐにロータリーに入ることは時間的にも経済的にも難しいかもしれませんが、その道を開くためにも、まずはロータリーとアクターとの親睦を深め、10年20年先、地域に貢献したいと望んだ時にロータリーが選択肢の一つになればと思います。

若い力や若い人間のアイデアが必要な時は是非声をかけて下さい。一緒に活動する事で理解は深まりますし、アクターにとっても普段関わることの出来ない方々との交流は魅力です。

ローターアクトなど新世代を支援することはお金がかかることだと思いますが、将来の日本の担い手への投資であると考えて頂ければと思います。知識も社会経験もまだまだ浅い僕たちですが、ロータリアンの皆様には今後ともご支援とご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。